

2017年4月11日

ジャカルタ ジャパン クラブ
会 員 各 位

ジャカルタ ジャパン クラブ
邦人安全対策連絡協議会

本協議会から最近の治安状況等についてお知らせいたします。会員各位ならびにご家族、また関係のご出張者におかれましては治安状況等に十分ご留意いただき、掲載の事件・事故と同様の被害に遭われないよう十分ご注意ください、ご周知ください。

* J J C 邦人安全対策連絡協議会 TEL : 315-0418
FAX : 3192-5902
* 在インドネシア日本国大使館 TEL : 3192-4308

1 石井新大使冒頭挨拶

昨10日、当地に赴任したばかりだが、一言ご挨拶申し上げる。私は20年前に外務省でインドネシアを管轄する地域課長をしており、毎月のように当地に出張に来ていた。その際のインドネシアの印象は道路などのインフラも未整備だったが、現在は成長が著しいと感じている。現在、インドネシアには2万人近い在留邦人と2千社近い日本企業が活動している。大使館として邦人の安全確保と日系企業の成功を支援していきたい。

私はこちらに赴任する前はベルギーで大使を務めていたが、空港や大使館近くの地下鉄でテロが発生した。テロを完全に防ぐことは非常に難しいが、情報収集をしっかりと行っていくので、皆様には最大限の注意を払ってテロに巻き込まれることのないようにしていただきたい。

2 最近の政治・治安情勢

(1) ジャカルタ首都特別州知事選挙

4月19日には、2月15日のジャカルタ首都特別州知事選の上位2組による決選投票が行われる。ジャカルタ州は公休日とする旨発表した。投票時間は午前7時から午後1時。各投票所とも即日開票で、大勢は夕方には判明すると思われる。投票所には近づかないようにしていただきたい。

また、本州知事選は2019年の大統領選の前哨戦とも言われ注目を集めており、世論調査の結果から接戦が予想される。アニス氏は、宗教問題を前面に出してキャンペーンを行っており、同氏が勝利すれば、イスラム主義勢力の主張が助長される可能性もあり、非寛容性の助長につながれば治安に悪影響する可能性もある。

一方、アホック氏が勝利した場合には、アニス陣営による抗議活動が行われる可能性があり、注意が必要である。4月11日のアホック現州知事に対する公判において、検察による求刑が予定されていたが、20日に延期された。選挙結果または裁判の結果によっては、再度デモが盛り上がる可能性もある。デモ等による混乱の機会にイスラム過激派による活動が行われる可能性も懸念される。

(2) テロ情勢

4月7日、東ジャワ州トゥバンで交通警察襲撃事件発生。実行犯の6名が射殺され、1名が拘束。東ジャワ州ラモンガンでI S I Lを支持するJ A D代表が逮捕された。

3 邦人に関わる最近の事件・事故報告

前回の協議会以降、邦人が巻き込まれた大きな事件・事故の報告はなし。

一方、スディルマン通り沿いの歩道や歩道橋で物盗りの被害は次の通り発生している。

日時	場所	被害（未遂状況）
3/15 14:00	ゲロラ ブンカルノ前歩道橋	歩道橋を1人渡っていたところ、2人組みの男に上半身を押さえつけられ、携帯電話を盗まれた。
3/17 11:30	ゲロラ ブンカルノ前歩道橋	日本人とインドネシア人の4名で渡っていたところ、インドネシア人4名程度が、ハンカチを見せてきて「君のもの

		か？」と声をかけてきた。その際にズボンの携帯電話を物色し盗られたが、それに気づき注意したところ、携帯電話を返してきた。(犯行時間1分程度)
3 / 20 17:30	ミッドプラザとインドフードを繋ぐ歩道橋階段下	歩道橋階段下を歩行中、急に腕をつかまれ、後ろポケットを物色され、携帯電話を盗られそうになった。大声をあげて抵抗したため、事なきを得たが、犯行者は離れてからもこちらを見てきた。
4 / 5 5:45	Jl. Wijaya 1 の道路上	車で通勤途中に、並走していたバイクの輩に、スパークプラグを加工したようなものを後部座席に投げつけられ、小爆発・窓ガラスが破損した。
4 / 5 午前	高速道路アンコール出口での検問	スカルノハッタ空港でタクシー（ブルバード）をピックアップし、ホテルへ向かう途中、高速道路を出たところ、2名の警察による検問があり、ボディチェックと荷物検査を受けた。ホテルへ到着するとバッグの中から6jutaが無くなっていた。
4 / 7 13:00	グランドインドネシアからスディルマン駅までの路上	メトロミニから降りてきた男5～6人が、急にポケットを物色し始めたので反抗すると、ハンカチを見せてきて「これは君のものか？」ととぼけたふりをしていた。

いずれも、一人であろうと複数人であろうと被害（未遂）にあわれている。また、時間は平日昼間であっても発生していることから一層の注意が必要である。

移動は車が原則とともに、万一、犯行に合った際は身の安全を優先していただきたい。

4 報告及び連絡

(1) インドネシアからの訪日渡航者の急増に対応するため、3月7日から日本人向けのパスポート・証明等の窓口を大使館2階の広報文化センター内に臨時に移設しているが、4月に入ってもまだ一日1,000件を超えるビザ申請が続いているため、臨時窓口は継続する。

日本政府観光局によれば、2016年のインドネシアからの年間訪日客数が推計27万1千人を記録し、初めて20万人を突破し、主要20カ国・地域の中で最大の前年比32.1%増となっている。

一方、インドネシア人の訪日渡航者の急増に伴って、負の側面が生じてきている。平成28年における外国人の日本への上陸拒否数は5,805人で、前年と比較して1,193人増加している。インドネシア、タイ、台湾の上位3か国・地域の上陸拒否数の合計は、3,264人で、全体数の56.2%を占める。インドネシアは前年の901人から1,683人（前年比86.8%増）に大幅に増加している。

また、難民認定申請数の主な国籍は、インドネシア1,829人、ネパール1,451人、フィリピン1,412人と続くが、インドネシアの不認定者は1,742人であり、いずれも最多である。

不法残留者数は、全体で65,270人。前回調査した平成28年1月1日現在に比べ、2,452人（3.9%）増加となり、3年連続の増加となっている。インドネシアは、2,222人で全体数の構成比としては3.4%ではあるが、訪日渡航者数で比べれば、やはり高い数値である。

(2) 海外安全対策については、「ゴルゴ13」をキャラクターに用いて、中堅・中小企業向け海外安全対策に係わる有益・有用な情報を発信している。これには中堅・中小企業だけでなく、その他の企業や個人にも役立つ情報が盛り込まれている。外務省の海外安全ホームページで公開しているので、ぜひご覧いただきたい。なお、4月14日に掲載される「第4話：ゴルゴからの依頼（熊本特別編）」ではインドネシア・ジャカルタが舞台になっている。

5 最近の医療事情等

麻疹（はしか）の発症が日本国内でみられている。日本では麻疹はほとんどなくなったようだが、最近バリ島から帰国した日本人が発症するなどのケースも見られ、山形や兵庫でも発症例が散見されている。米CDC（アメリカ疾病予防管理センター）がレベル1（注意喚起）を出した。

この疾病は伝染力の強いウイルスによって空気感染・飛沫感染するため注意が必要で、日本人では20歳代後半から30歳代の年代で、麻疹の抵抗力が弱いことが明らかになっており、この年齢層が流行

国に滞在する際には、麻疹ワクチンの追加接種が推奨される。

6 各社（団体）からの報告等

（1）人事関連の査察に関して （報告）

先月報告した労働局による査察に関し、外国人雇用計画書（RPTKA）については更新された。しかし就労許可（IMATA）に関して、2名の駐在員の仕事場の場所が適切でなく、ジャカルタ以外のミーティング先の場所も登録すべきというレターを受領した。サービス分野に従業する企業として顧客の利便性を優先してジャカルタ以外で行われるビジネスミーティングに出席する場所は仕事場ではなく、現在の登録が適切であるとの返答をした。

（2）VOAについて （報告）

スーツ姿でインドネシアにゴルフと観光を目的に訪れたところ、VOAの購入を指示された。これは、スーツ姿であったことが原因と思われる。また、購入に当たり日本円しか所有していなかったため、5000円を出したところ、お釣りが出なかった。また10000円を払い2000円のお釣りしか出ないなどのケースも散見されている。

（3）Block M エレベーター事故について （報告）

3月12日にBlock Mでエレベーターの落下事故が発生した。お祈りの時刻とも重なり、24名載りのエレベーターに31名が乗車したため、事故が発生した。フリーフォールのように落ちたとの報道もあるが、少しずつ落ちていった。

当地は日本のような法廷点検が義務付けられておらず、ビルオーナーに委ねられている。したがって、お祈りの時間のエレベーターの利用は避けることや満員のエレベーターには乗らないこと、古いビルのエレベーターの乗降には注意が必要である。

（4）日本人学校関連

（報告：JJS 米村校長 着任挨拶）

JJSは、1200名を超えるマンモス学校で、子供の安心・安全という重責を担っている。今年度のテーマは「わかちあい」。わかちかう言葉や姿、心をテーマに展開していきたい。

次回の邦人安全対策連絡協議会は5月8日（火）午前11時から